

修正案	原文
(1) 学級数が少ないことによる 学校運営上の特性	
<メリット>	
	・児童生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな支援・指導が行いやすい。
	・学校行事や部活動等において、児童生徒の個別の活動機会を設定しやすい。
	・児童生徒相互の人間関係が深まりやすい。
	・学校が一体となって活動しやすく、異学年間の交流も生まれやすい。
	・特別教室、体育館などの利用時間等の調整が行いやすい。
	・災害発生等による緊急避難時に混雑が生じにくい。
	・空き教室があれば有効活用できる。
<デメリット>	
削除する	・児童生徒間の多様な考えに触れる機会など、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。
	・体育的、文化的行事などの集団活動に制約が生じやすい。
	・クラス替えがしにくく、人間関係が固定化しやすい。
	・組織的な体制が組みにくく、指導方法等に制約が生じやすい。
	・学校全体の活性化が図りにくい。
(2) 教職員が少なくなることによる 学校運営上の特性	
<メリット>	
	・全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。
	・学校が一体となって活動しやすい。
	・施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい。
	・教職員相互に仕事ぶりがよく見える。
<デメリット>	
	・年齢、教職経験、教科、特性などの面でバランスのとれた教職員配置をしにくい。
	・学年別や教科別の教職員同士で、相談・研究・協力等が行いにくい。
	・顧問の人材確保などが難しく、中学校の部活動が限定される。
	・一人に複数の校務分掌が集中しやすい。
	・出張、研修等の調整が難しい。
削除する	・少人数学習や小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態をとりにくい。
	・中学校の授業時間数の少ない教科では本務者の配置が難しい。
	・職員が療養休暇等に入ってしまった場合など、職員の補填がきかない。

(3) 大規模校において考えられる 学校運営上の特性	
<メリット>	
削除する	・集団の中で、多様な考え方に触れ、切磋琢磨し やすい。
	・体育的、文化的行事などの集団活動に活気が生 じやすい。
削除する	・児童・生徒数、教職員数が多いため、少人数学習 や小学校の専科教員による指導など、多様な学習・ 指導形態をとりやすい。
・様々な種類の部活動等の運営が可能となる。	・様々な種類の部活動等の設置が可能となる。
	・学校全体での組織的な指導体制が組みやすい。
	・PTA活動等において、役割分担により、保護 者の負担を分散しやすい。
	・大規模校では、児童生徒数や学級数に応じた教 職員数の加配がある。
	・校務分掌を分担して、複数人で対応すること ができる。
<デメリット>	
削除する	・全教職員による児童生徒一人ひとりの把握が難 しくなりやすい。
	・学校行事等において、一人ひとりの個別の活動 機会を設定しにくい。
	・学年内・異学年間の交流が不十分になりやすい。
・教職員相互の連絡調整が図りにくい。	・教職員相互の連絡調整が図りづらい。
・特別教室や体育館等の利用調整が図りにくい。	・特別教室や体育館等の利用調整がしづらい。
削除する	・全体がまとまるまでに時間がかかる。
・児童生徒が多ければ、それだけ様々な個性、特 性を持つ子どもも多く、支援に手間や時間を多く 要する。けがのほか、事故やトラブルが起こる件 数が多くなる。	・児童生徒が多ければ、それだけ様々な個性、特 性を持つ子どもも多く、支援に手間や時間を多く 要する。事故やトラブルが起こる割合も高くな る。
	・児童生徒数や教職員数が多くなっても、管理職 の数は変わらないため、多種多様な対応が必要と なり、管理職の負担が大きい。
	・校外行事や校外学習等の場所以限定されること がある。
・学級数が多いと、運動会や卒業式などの行事に おいて、学年全体での動きがとりにくい。健康診 断や避難訓練などにも時間がかかる。	・学級数が多いと、運動会や卒業式などの行事に おいて、学年全体での動きがとりにくい。健康診 断や避難訓練などにも時間がかかる。
・登下校時の安全確保が難しい。地域によっては 交差点が児童生徒であふれかえり、交通安全面 での危険性が增大する。また、地域住民等の通行の 妨げになり、クレームにもつながる。	・登下校時の安全確保が難しい。地域によっては 交差点が子どもたちであふれかえり、地域からの クレームにもつながる。
	・体育館に全校の児童生徒が収容できない。
削除する	・小学校など、休み時間の校庭に多くの子ども たちが遊んでおり、けがも多い。
・学級数が多く教室配置が学年で揃えられない と、1クラスだけ異なるフロアや棟になるとが あり、学年のまとまりがとりにくい。	・学級数が多く教室配置が学年で揃えられない と、1クラスだけ異なるフロアや棟になるとが あり、学年のまとまりがとりにくい。

(4) 学校運営上の特性(前述(1)から(3)が児童生徒に与える影響)	
<小規模校>	
	○きめ細かな指導が可能→心身の健やかな成長、資質や能力が伸長する。
	○個別の活動の機会→活動の満足度が高く、自己肯定感も高まる。
	○安心感をもって落ち着いた学校生活が送れる。
	○個々の児童生徒の状況を把握しやすく、個に応じた指導やきめ細かな支援を行いやすい。
削除する	○切磋琢磨する機会が少ない。
	○人間関係の固定化→マイナス面の改善が困難となる。
	○クラス替えなども難しく、児童生徒の人間関係が固定化しやすい。
<大規模校>	
削除する	○集団での切磋琢磨→社会性やたくましさ等を育みやすい。
	○クラス替え→豊かな人間関係の構築、多様な集団の形成が可能となる。
	○様々な人との出会い→多様な考え方に出会い成長できる。
・多くの教職員が関わることで、多面的に児童生徒を見ることができる。	○多くの教職員が関わることで、多面的に子どもを見ることができる。
	○多様な人間関係を構築する機会が多い。
削除する	○教職員数、児童生徒数が多いため、多様な学習・指導形態が可能となる。
削除する	○特別教室や体育館等の利用調整がしづらい。
	○校外行事や校外学習等の場所在限定されることがある。
	○個別の活動の機会が少ない、個の発表の機会が少ない→自己肯定感、自己有用感を育む機会が少ない。
	○全校単位、学年単位での活動に制約がかかる→活動機会が狭まる。
・児童生徒間の事故やトラブルが多くなる。	○子ども同士の事故やトラブルが多くなる。

(4) 全体
「○」を「・」に修正する